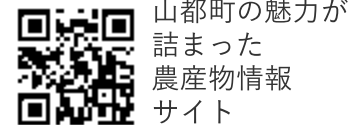




有機農業のまち 熊本県山都町の取組



山の都のたからもの 🔍



山都町有機農業歴史 🔍

山都町は「SDGs（持続可能な開発目標）」に取り組んでいます。



～有機農業のまち 山都町の取組～

目次

1. 山都町の紹介
2. 山都町の農業
3. 新規就農
4. 山都町の有機農業
5. 学校給食
6. 山都町有機農業協議会
7. 山都町有機農業推進計画
8. みどりの食料システム戦略
9. 有機農業の支援
10. 取組の成果と今後
11. 参考文献等

01 熊本県 山都町（やまとちょう）の紹介

阿蘇山麓のまち

山都町

2

YAMATO-CHO, KUMAMOTO/JPN

位置

熊本県の東部、九州の中心に位置し、北部は阿蘇の南外輪山、南部は九州脊梁山地に囲まれ、緑川（有明海）、五ヶ瀬川（太平洋）の流れにより、起伏に富んだ溪谷美を形成

標高と気候

200～1700m 準高冷地の気候の中山間地

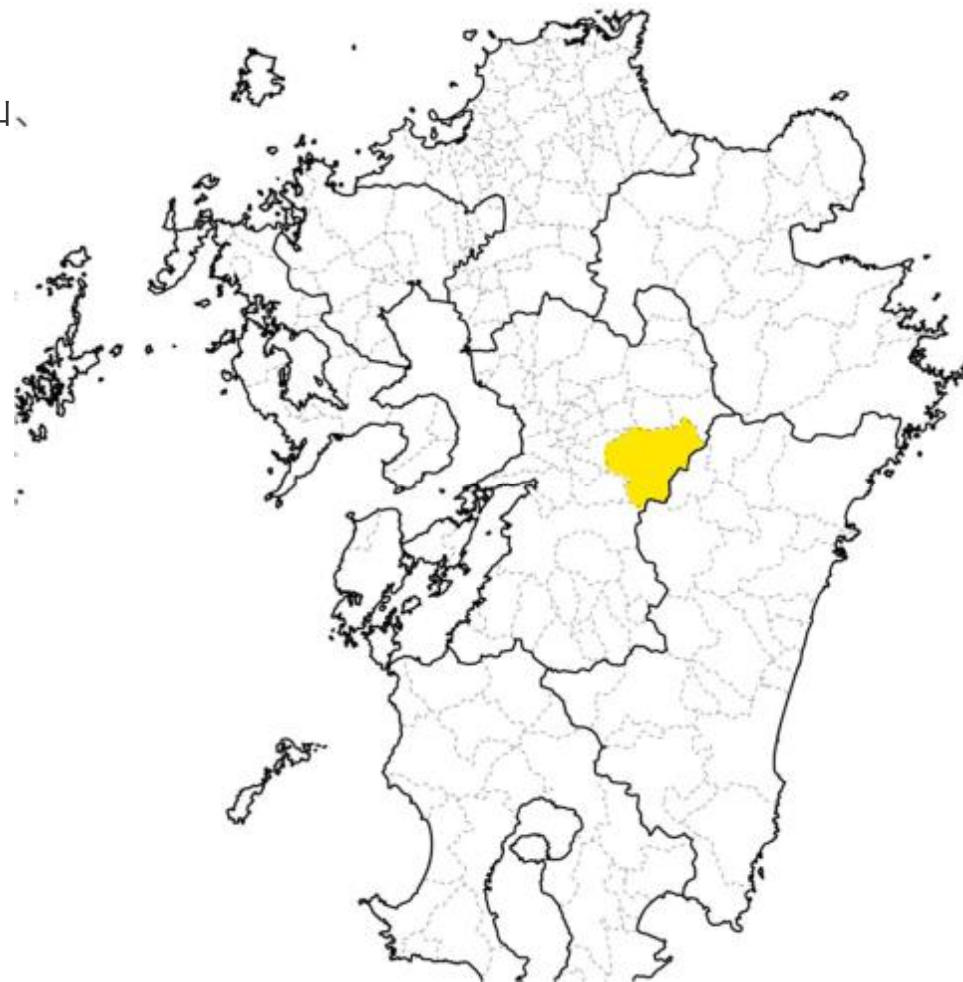
面積と人口

544.67km²（R7全国都道府県市区町村別面積調）

13,503人（R2国勢調査）

基幹産業

農林業 町域の約78%山林・原野、約9%田・畑等の農用地



01 山都町の紹介・国宝 通潤橋

阿蘇山麓のまち

山都町

3

YAMATO-CHO, KUMAMOTO/JPN

通潤橋（つうじゅんきょう）

水不足に悩む白糸台地地域に水を届けるため建設（嘉永7年）され、今なお現役の農業用水として使用される日本最大級の石造りアーチ水路橋。

平成28年の熊本地震により通水管が損傷し、平成30年の豪雨で石垣が崩落。その後保存修理工事が完了し、令和2年に放水再開。

令和5年には熊本県内では2例目、土木構造物としては全国初の国宝に指定。

通潤橋の規模

水路の長さ	126m	橋の長さ	75.6m
橋の幅	6.3m	橋の高さ	20.2m
アーチの半径	27.6m		

通潤橋公式サイト





蘇陽峽

高さ約200mもの切り立った絶壁が10kmも続く、全国でも珍しいU字谷渓谷。

紅葉の名所で、「九州のグランドキャニオン」と言われる。



八朔祭・大造り物

9月に五穀豊穡を祈願し開催。主役は大きいもので高さ5mを超える「大造り物」。

材料はすべて山野に自生する植物が使われており、その迫力は圧巻。



清和文楽

熊本県に残る唯一の人形浄瑠璃芝居。熊本県重要無形文化財に指定。九州唯一の人形浄瑠璃専用劇場で公演を楽しむことができる。

02 山都町の農業

特徴

中山間地域特有の冷涼な気候と寒暖の差、清らかな水とミネラル豊富な土壌を活かした、お米や夏秋野菜の生産が盛ん

「安心安全な農産物を活かした農業振興」を町の重点プロジェクトに位置付け、環境保全型・地域循環型の農業を推進

農業経営体数	1,567 経営体
--------	-----------

認定農業者（町調べ）	260 経営体
------------	---------

経営耕地面積	2,958 ヘクタール
--------	-------------

農業に60日以上従事した世帯員、役員・構成員（経営主含む）数	2,788 人
--------------------------------	---------

うち、65歳以上（割合）	1,684 人（60.4%）
--------------	----------------

2020年農林業センサス



02 山都町の農業・品目

阿蘇山麓のまち

山都町

6

YAMATO-CHO, KIJIMOTO/JPN

品目

トマト、お米、いちご、キャベツ、ピーマン、栗、ブルーベリー、茶、椎茸、柚子等

トマト農業産出額
全国8位！



03 新規就農・研修制度

研修制度

将来の担い手を確保するため、山都町独自の研修機関として、「山都地域担い手育成総合支援協議会」を設立し、熊本県の認定研修機関に登録。3人程度/年を上限に研修生の受け入れを行う。

受入農家 13軒（うち有機農家7軒）

認定研修機関

研修生が国の支援事業（就農準備資金）を受けながら、就農前に必要な技術・知識を身に付ける研修を受けることができる機関（熊本県認定）



受入農家と研修修了生

研修申込

- 59歳未満
- 山都町で就農することが条件

体験研修

- 2つ以上の受入農家で研修を受ける

受入農家
決定

- 1～2年間お世話になる受入農家を決める

面接

- 受入農家などへの紹介もかねて、面接

研修
スタート

- 4月または9月開始
- 実践研修：週5日程度
- 集合研修：月1回程度
- 研修費：1万円/月

農業開始

- 研修修了後1年以内に就農

03 新規就農・PR、実績

就農状況 (H30~R6)

- 担い手育成総合協議会 研修修了生9名 (うち有機農家6名)
- 移住者221名 就農者 16名 (うち有機農家13名)

山都地域担い手育成総合支援協議会サイト
新規就農の農業研修制度を紹介

山都町農業研修



新規就農フェア出展の様子



山都町農業研修

パンフレット



NPO法人有機の学校

OrganicSmile

04 山都町の有機農業

有機農業

化学肥料や化学合成農薬、遺伝子組み換え技術を使わず、自然との調和を大切にしながら行う環境にやさしい農法

有機JAS

農薬や化学肥料、遺伝子組み換え技術などを使用せず、2～3年以上有機的な管理を行った農地について、栽培記録などの厳しい審査を経て、「有機JAS」を取得できる



山都町ふるさと応援大使
伴都美子さん出演

山都町SDGs動画



有機農業者数 128人 有機農業取組面積に係る実態調査 (R6)

有機JAS認証事業者数 54事業者 農林水産省ホームページ (R7)

全国No.1!

経営耕地面積 2,958.1ha 農林業センサス (R2)

有機農業農地面積 163.9ha 有機農業取組面積に係る実態調査 (R6)

有機JASほ場面積 106.4ha 認証事業者調べ (R6)



有機JASマーク

04 山都町の有機農業・歴史



故 佐藤 明雄氏

1972	1973	1974	1975	1976	1977	1982	1984	1985	1986	1990	1992
S47	S48	S49	S50	S51	S52	S57	S59	S60	S61	H2	H4
三葉会、愛農会 発足	松葉会 発足	熊本有機農業研 究会 設立	複合汚染 発売 著・有吉佐和子	日南田会 発足	第3回全国有機農 業大会 開催	御岳会 発足	わらびの会 発足	くまもと有機の 会 発足	御岳農協有機農 業研究会 発足	蘇陽町有機農業 研究会 発足、 合鴨農法始まる	有機農業に関す る大会 開催

1996	1997	1998	2000	2002	2003	2010	2012	2014	2016	2017	2018	2021	2022	2023
H8	H9	H10	H12	H14	H15	H22	H24	H26	H28	H29	H30	R3	R4	R5
土のめぐみ 発足	J A 矢部無農薬 茶部会 発足	清和ミネラル会 発足	J A 清和有機農 法研究会 発足	J A 矢部有機農 業研究会 発足	矢部町有機農業 協議会 発足	肥後やまと会 発足	山都町農産物出 荷協議会 発足	Aso Gairinzan Organic 発足	株式会社肥後や まと 設立	山都町がくまも とグリーン農業 宣言を行う	第1回有機農産 物うまかもん祭 開催	有機農業推進計 画 策定	有機農業実施計 画 策定	オーガニックビ レッジ宣言



04 山都町の農業・オーガニックビレッジ宣言

阿蘇山麓のまち

山都町

11

YAMATO-CHO, KUMAMOTO/JPN

くまもとグリーン農業

土づくりをして、化学合成された農薬や肥料をできるだけ減らした環境に配慮した農業のことを「くまもとグリーン農業」という。

SDGs未来都市

SDGsの達成に向けた優れた取組を行う都市として、「SDGs未来都市」
「自治体SDGsモデル事業」に選定された（R3）
テーマ「有機農業を核とした有機的な繋がりが広がる町の実現」

オーガニックビレッジ宣言

今まで守られてきた美しい自然環境を次世代に繋いでいくため、今後も環境に配慮した有機農業を推進していくとして、山都町として「オーガニックビレッジ宣言」を行った（R5）



04 山都町の有機農業・有機農産物

阿蘇山麓のまち

山都町

12

YAMATO-CHO, KIJIAMOTO/JPN

品目

米、ベビーリーフ、チンゲン菜、小松菜、レタス、だいこん、玉ねぎ、じゃがいも、にんじん、さといも、なす、ピーマン、トマトなど

出荷先

町内の販売事業者、個人宅配、生協、直売所、農協（有機米）など
多くは都市部のスーパーや生協等に流通している

町内の流通事業者：

株式会社コープ有機九州支所、株式会社肥後やまと、株式会社土のめぐみ

町内の利用

- 有機農産物の取り扱いがある飲食店 9店舗
- 道の駅「通潤橋」などで有機農産物を販売



山都町産有機農産物販売の様子

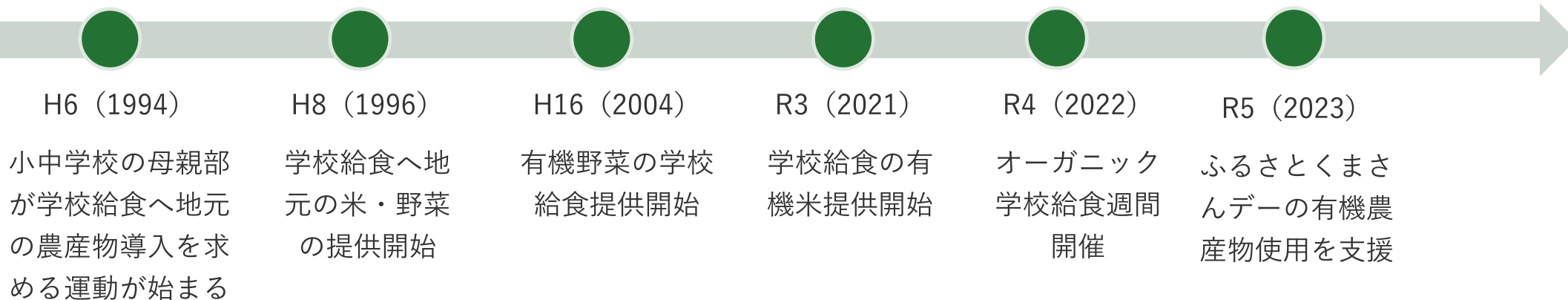
山都町の小中学校

- 小学校5校、中学校3校 計8校 児童生徒数 704人 (R7)
- 全校自校方式
- 完全米飯給食 (H29～)



有機野菜を使用した学校給食

有機農業の歴史～学校給食～



- オーガニック学校給食週間…週間中の給食の野菜の一部を有機野菜に変更した。(みどりの食料システム戦略国補助活用)
- ふるさとくまさんデー…熊本県では毎月19日の食育の日を「ふるさとくま(熊)さん(産)デー」とし、地域・熊本県内で生産された農林水産物を活用し、熊本の伝統料理等の給食の実施やお便りで紹介などの取り組みを行っている。

06 山都町有機農業協議会

立ち上げ

町内に存在していた有機農業グループの垣根を超えた会として「矢部町有機農業協議会（現：山都町有機農業協議会）」が発足（H15）

目的

無農薬、有機農業生産者間の交流をはかり、有機農業経営の確立を目指しながら、有機農法を普及し、食に携わる人や消費者の人たちとの距離を近づけていくこと

組織体系



構成

- 三役（会長、副会長、会計）
- 監査
- 事務局
- 生産グループ
- 個人会員
- 熊本県有機農業研究会理事

生産者グループ

- 御岳会 ・ 愛農会
- 生産者の会やまとベジ
- ASO GAIRINZAN ORGANIC
- 清和ミネラル会
- 山都町えごま研究会
- JA矢部有機農業研究会
- COG

専門部会

- ブランド米部会
- Organic山都部会
- 学校給食部会
- 販売促進部会
- こども野菜塾部会

子ども野菜塾部会

都会の子供たちに真の野菜の魅力を五感で感じてもらう取り組みとして、こども野菜塾を開催（田植え、稲刈り体験など）



Organic山都部会

有機農産物の生産（生産者育成）と取組面積の拡大を図るため、有機農業の栽培技術の本質と、その優位性について勉強会を実施



ブランド米部会

有機米のブランド化を目指し、熊本県農業試験場跡地で農薬不使用・化学肥料不使用でお米を生産（1ヘクタール）



学校給食部会

小中学校の栄養教諭と一緒に定期的に会議を実施して学校給食の地産地消やオーガニック化を目指す



販売促進部会

山都町の有機農産物等の販売促進及び認知度向上のためPR実施



オーガニックマルシェ

山都町の有機農業や有機農産物を町外にPRし、ファンを増やすためオーガニックマルシェを開催（R7 2回開催予定）



07 山都町有機農業推進計画・策定

趣旨

有機農家の経営向上や担い手育成、約50年間化学肥料や農薬を軽減した農業を実践し守ってきた農地や美しい自然環境を次世代に繋いでいくことやその取り組みを拡大し、山都町の有機農業のさらなる振興を図る。

計画

1. 新規就農者・後継者の育成及びサポート
2. 有機JAS認証の支援
3. 有機米生産へのサポート体制の整備
4. 有機農業の拠点づくり
5. 販路拡大へ向けた取り組み
6. 学校給食の有機農産物利用拡大
7. 町内での有機農産物の販売・利用拡大の取り組み
8. 「有機農業の町 山都町」のPR活動



ワークショップの様子

新規・若手有機農業技術講習会

有機農業の新規就農者や若手農家の栽培技術向上のため、座学とほ場実践の講習会を実施



有機の堆肥づくり講習会

山都町の資源を活用した良質な堆肥を作れるようにするためのワークショップを実施



簡易土壌分析・講習会

簡易土壌分析方法及び分析結果に基づく施肥設計について講習会を実施



有機育苗技術講習会

新規、若手の有機農業者が安定した農業経営ができるようになるための講習会を実施



慣行農家向け有機農業講習会

町内の農業生産者を対象に有機農業につながるお米づくり講演会を実施



販路開拓に向けた展示会出展

関東・関西の展示会に出展し、商談を実施

学校給食をマーケットにした流通及び実証事業

有機農産物を町外の学校給食に流通させるための仕組みづくりを実施

有機農産物の流通プラットフォームづくり及び物流の構築

有機農産物取り扱い事業者と情報共有及び連携を図り、流通プラットフォームについて調査を実施



学校給食の取組み

山都町オーガニック学校給食週間（メニュー開発、オーガニック学校給食週間）



有機農産物販売促進イベント

有機農産物をPRすることで販売利用を促進するためにイベントを開催



事業内容

山都町の有機農業面積及び有機JAS面積の拡大、有機農業に取り組む経営体の増加を目的に有機農業の推進を図るため、有機農業振興事業に対する経費を補助

対象者

山都町内に住所を有する者、有機農産物の生産行程管理者



補助内容等

	区分	内容	補助事業者	補助率
有機JAS拡大支援事業	有機JAS認証事業	有機JASの認証に係る経費を補助	新規生産行程管理者	補助対象経費の10/10
			継続生産行程管理者	補助対象経費の8/10
	有機JAS面積事業	有機JAS認証拡大面積に応じて補助	生産行程管理者	認証拡大面積に応じて12,000円/10a
有機農産物流通機械施設整備事業		有機農産物の貯蔵、流通に係る機械導入、施設整備を補助	生産行程管理者又は生産行程管理者を1名以上含む団体	補助対象経費の1/2 補助限度額1,000,000円

09 有機農業の支援

山都町有機農業サポートセンター

有機JAS申請の相談やアドバイス、栽培技術、施肥設計、栽培検証などを行う「山都町有機農業サポートセンター」開設

有機米生産へのサポート

- アイガモ農法に必要な経費の補助（アイガモ、エサ代等）
- アイガモロボの実証実験

持続可能な農業の推進

- 堆肥生産利用に必要な施設工事、機械導入の補助事業

学校給食の有機農産物利用拡大

- 学校給食の一般米と有機米の差額分を支援
- 有機野菜の購入を支援（ふるさとくまさんデー）



サポートセンター勉強会



アイガモ農法



アイガモロボ

10 取組の成果と今後

山都町の有機農業 の認知度向上	○	<ul style="list-style-type: none">●企業等から有機農産物を取り扱いたいという商談増加●全国各地から有機農業について視察依頼
有機JAS面積・ 事業者の増加	○	<ul style="list-style-type: none">●推進計画策定時からの推移<ul style="list-style-type: none">・有機JAS面積：90.2ha (R3) →106.4ha (R6)・有機JAS認証事業者：52事業者 (R3) →54事業者 (R7)
慣行から 有機への転換	△	<ul style="list-style-type: none">●病気や害虫、雑草などのリスクが課題
高齢化、 担い手不足	△	<ul style="list-style-type: none">●推進計画より、有機農家の年代は60代が45%●後継者がいない有機農家が59%

今後も生産者、関係機関と協力しながら、
環境にやさしい農業・有機農業に取り組んでいく

11 有機農業のまち 山都町！

阿蘇山麓のまち

山都町 24

YAMATO-CHO, KUMAMOTO/JPN

最寄りの空港

阿蘇くまもと空港から約35km 車で約50分

最寄りのIC

山都通潤橋ICから約700m 車で約2分

道の駅

道の駅清和文楽邑、そよ風パーク、通潤橋

有機農業の新規就農PR動画



町の魅力と有機農業の特徴を紹介
「GIFT 山の都のたからもの」



山都町新規就農動画



参考図書 著者 有吉佐和子「複合汚染」

著者 内田敬介「有機農業運動（草創期）の記録－熊本県を中心に－」